



半澤勝好 議員

問 60歳以上は70割が結核菌の保有者と言われているが、近年また、その患者が見え始めた。

結核菌は体内に50年以上潜伏していると云われ、ある専門家は2週間以上咳き込んだら医者診断が必要だと注意している。町では町民の健康管理について座して待つより、町内に出て町民と直接対話して情報を得ることが大切である。

医療先進県と言われている長野県では、担当者が県内限なく歩いて意見や要望を直接聞いてアドバイスして多大の成果を得ている。柴田町も見習ってはどうか。町長の所見を伺う。

Q 多剤性結核菌への対策は

A 結核予防法により検診を実施している

答 滝口町長 高齢者で体力の衰えと同時に菌が活動して発病するケースが考えられ、本町では結核予防法により幼児期はツベルクリン反応検査、16歳以上に結核検査、40歳以上には結核肺がん検診を実施しています。

その中から2名の患者が発見されました。対策としてはいつもバランスの良い食事と適度の運動と十分な睡眠が大切であるとされています。今後健康診断の実施や講座等の充実を図りながら健康意識の高揚、行動する保健事業を展開して参りたいと思っています。昨年受診率は9千391人で83・5割、受診後の精密検査受検者は240人で、



楽しく健康づくり



舟山邦夫 議員

Q 町長に対し行革の基本姿勢を問う

A まずは意識改革



さくら歩道橋の下から

問 (1) 印鑑証明など町民の利便性向上のため、町民課窓口延長や、子育て支援のための延長保育など、なぜすぐできないのでしょうか。

行政の無駄を無くせばすぐできるはずなのに。(2) 町長は、役場はサービス業だと言うが、だったら庁舎内外の掃除は自分たち職員自身でやるのが筋と考えるか。(3) 今、行政に求められているのは、自ら肥大化した行政機構の簡素化で

はないのか。その結果として、役場職員の定数減、お金のからない行政、住民のための施策本位の行政ができると信じる。そこで、町長の改革に対する基本的考えを伺う。

答 滝口町長 (1) 実現に努めます。(2) 外部委託も行革の一つの手法と考えます。(3) リストラなどの減量型の行革は町民に見えやすいと思いますが、まずやらなければならないこ

とは、お上意識を払拭するなどの意識改革であると考えます。確かにご指摘の行政機構の簡素化では、類似団体と比べて17人ほど役場職員が多いが、それは柴田町独自の福祉政策などによるものであり、行政機構とは住民が求めるサービスによって、その都度柔軟に組織されるものでありますから、職員の定数減が先にあるべきではないと考えます。